

藤堂叶倫朗読公演

十一月十一日の会

朗読 藤堂叶倫

ミラーヴ 入野智江ターラ

うらぼんえ

浅田次郎 作

2016年11月11日(金)

午後7時開演 <午後6時30分開場>

めぐろパーシモンホール 小ホール

目黒区八雲1-1-1 TEL:03(5701)2924 <地図・最寄駅等・裏面参照>

[主催] 語りと音楽「リリアン」 <http://toudoukarin.com>
お問い合わせ TEL:050-3708-4798

[後援] 国際芸術連盟 [協力] 藤堂叶倫 朗読教室

前売り:2500円 当日:2900円 | 全席自由

[チケット取扱い]

■ 語りと音楽「リリアン」

電話:050-3708-4798

メール:lily-yarn@toudoukarin.com

ホームページ:<http://toudoukarin.com>

■ めぐろパーシモンホール チケットセンター窓口

TEL:03-5701-2904 ※受付時間:10:00~19:00

「うらぼんえ」朗読にあたり

「うらぼんえ」は、浅田次郎氏の処女短篇集『鉄道員』に含まれる作品です。表題作の「鉄道員」また、「ラブレター」「角笛にて」をはじめとする8つの作品は、第117回直木賞を受賞したのも当然と思える完成度の高い作品群です。

浅田氏自身がこの『鉄道員』の巻末に“「うらぼんえ」の主人公ちえこが「胸の奥から炎の吹き上がるように」突然子供を産みたいと思う。私に小説を書き続けさせたエネルギーは、すなわちこれであろう。”と記しています。これは氏自らの生い立ちと重ねながら、悲しみを抑え込み幼い頃からひたすら努力したものに訪れる「奇蹟」だということでしょう。不幸な子供時代に感受出来なかった愛情を、たとえ成人してからでも感受出来た時に初めて無償の愛の連鎖は訪れるのかもしれません。

浅田氏の「読者の心に奇蹟が起こってくれるなら幸いである。」という願いに沿い朗読していきたいと思っています。

2016年9月 藤堂 叶倫 記



<朗読> 藤堂 叶倫 (とうどう・かりん)

東京都出身。日本大学芸術学部卒業。劇団「青俳」養成所にて演劇の基礎を学ぶ。朗読を鈴木弘子氏に師事。以後朗読家として活動している。またコンサートを中心としたイベントMCやパーティーなどの司会を行っている。妖精堂主催Spirits of JAPANにて宮部みゆき作「謀りごと」、海野弘作「けいどう」。国際芸術連盟主催朗読と音の風景にて服部和彦作「青い花びらの舞う」。地球社主催 井上靖生誕百年祭にて井上靖作「漆胡樽」「乾河道」。その他朗読作品は多岐にわたり多くの舞台朗読をおこなっている。本年10月30日グルックススタジオ主催 愛の詩人新川和江の世界～朗読とソプラノのコンサート～にて新川氏と共に朗読を担当する。2000年に“語りと音楽「リリアン」”を発足、目黒区芸術文化活動団体となり代表を務める。2005年より、目黒区及び目黒区教育委員会後援により、“朗読と音楽でつづる「今、伝えたいこと」”を定期的に開催する。朗読、音楽、映像の構成、演出を手掛る。

国際芸術連盟朗読芸術賞受賞。

国際芸術連盟主催「朗読オーディション」並びに「朗読コンクール」審査員。

藤堂 叶倫朗読教室主宰。「朗読講座」「朗読健康講座」を開設。 <http://toudoukarin.com>



<ゲスト奏者> 入野 智江ターラ

(いりの・ともえ・たーら)

東京生まれ。作曲家、入野義朗を父に持ち、音楽教育家の母のもとで、幼少より音楽教育を受ける。

1994年より南インド・ケーララ州をたびたび訪れ、サンスクリット古典劇の研鑽に励む。日本で唯一の演者として活躍中。

また、伴奏に使われる壺型の太鼓ミラーヴの演奏と普及も行なっている。ムリダンガムやイダグキヤなど、南インドの伝統打楽器も演奏する。オリジナル竹楽器のグループ「東京楽竹団」の創立メンバー。

「アビヤナラボ」主宰。JML音楽研究所、南インド芸能クラス講師。

<監修> 松田美作子

(まつだ・みさこ)

成城大学文芸学部准教授。

近代初期英文学・文化専攻。主著『シェイクスピアとエンブレム』(慶應義塾大学出版会、2012年)、共訳『エンブレムの宇宙』(ありな書房、2013年)。戯曲の翻訳では、ピーター・シェーファー作『無邪気な嘘つき』などがある。

めぐろパーシモンホール 小ホール

目黒区八雲1-1-1 TEL:03-5701-2924

■東急東横線

都立大学駅徒歩7分

■バス

[渋 34] 渋谷駅～東京医療センター / [黒 07] 目黒駅～弦巻営業所

[多摩 01] 多摩川駅～東京医療センター / [都立 01] 都立大学駅北口～成城学園前駅

「めぐろ区民キャンパス」下車すぐ

※駐車場の台数が非常に少ないため、公共交通機関をご利用ください。

